

明日の夢時計

楽しい夢を求めて



飛鳥 圭

はじめに

5月・・・一番好きな季節かも知れません。

新緑眩しく・・・不思議に大好きだった君の瞳を思い出してしまう。

雨降る日は清らかな日を迎えたように何もかも新鮮で心まで清々しくなってくる。

詩集「明日の夢時計」は未来へむけて楽しい夢が刻まれるようにそんな願いを込めた作品を目指しているのであるが、ところどころ恋物語的な詩になって脱線したりもしている。

詩集をみたび発行するについて、今度は頁数を100頁程度と少なくし、どう考えても難解で短い文章の中に普段使わない漢字をしたため、読者の方が場合によっては国語辞書を片手に何かこのホィ味わい深くいい詩なのだが理屈ぽくって、解説がないと難しいと言うようなものにしたいと思っていたのであるが、性格だろうかすなわち成熟した大人の詩は僕の場合は似合わないと思うのである。

過去に出版したようなひらがなが多い、子供たちでも読める少し大人びた愛と恋物語的な詩が自身の身丈にあっているのじゃないかと考えたのである。

雨に濡れてしまった若葉は香りを放ち、君が涙を流したような瞳となり何故か懐かしい！
雲ひとつない青空・・・天国まで透き通っているようで、大きな声で君の名を呼びたくなる。
元気ですか？・・・わたしは変わりなく元気だよ！と返事が返ってきます。

ほんとうはそんなことは無いのだけれど気持ちはいつもそうなのです。
そして夢の中も不思議にそのようです・・・夢ではいつでも会えるからそう信じている。

瀬戸大橋の見ゆる公園よ
り

飛鳥 圭

目次

I 今思うと何となく

- * ぶりむけば・・・1
- * 瀬戸内・・・2
- * かがやく日・・・3
- * 恋する少年・・・4
- * 好きだった・・・5
- * 明日へ・・・6
- * 光の子・・・7
- * 輝いているか・・・8
- * 今日はね・・・9
- * 思い出・・・10

- * 誕生日・・・11
- * 冬のうた・・・12
- * ひとりで歩く・・・13
- * 愛LOVE YOU・・・14
- * 希望と感謝と明日へ・・・15
- * 不可能・・・16
- * 雨ふるる頃・・・17
- * 冬萌ゆる・・・18
- * 探しものは・・・19
- * 母の愛・・・20

II すこし頑張らないと

- * 初めての・・・21
- * ショートボブ・・・22
- * 夢の花・・・23
- * 君の誕生日・・・24
- * 性格・・・25
- * 薄くって軽い・・・26
- * 切ない気持ち・・・27
- * 何事も・・・28
- * 夢みる頃に・・・29
- * どうしましょ・・・30

- *あの頃あの時・・・31
- *さよなら・・・32
- *みんなのお風呂・・・33
- *N A I V E・・・34
- *あなたへ・・・35
- *家路・・・36
- *行動・・・37
- *しっぴつ・・・38
- *さよならの向こう・・・39
- *無視したこと・・・40

/// よくよく考えると

- *春ですねえ・・・41
- *優柔不断・・・42
- *嘘・うそ・・・43
- *雲ながるる日・・・44
- *川面・・・45
- *そよ風・・・46
- *別れと出会い・・・47
- *大好きだった・・・48
- *過ぎし日々へ・・・49
- * 爛爛ラン・・・50

- *好きなら・・・51
- *ちょっとしたこと・・・52
- *輝く故郷・・・53
- *遠い国・・・54
- *旅立ち・・・55
- *感謝すること・・・56
- *明日の未来へ・・・57
- *いつも考えてる・・・58
- *生きる・・・59
- *こんな日に・・・60

- *好きな人・・・61
- *最悪なこと・・・62
- *忘れ物・・・63
- *遙か彼方・・・64
- *新しい日に・・・65
- *今日から・・・66
- *君のとおり道・・・67
- *おまえは何をした・・・68
- *雲ながるる果てに・・・69
- *はるは春・・・70

- *妖精・・・71
- *移りゆく日々・・・72
- *過去・・・73
- *雨の朝・・・74
- *初恋×2なのです・・・75
- *山は山・・・76
- *死と太陽・・・77
- *スタート・・・78
- *変わりゆく日に・・・79
- *夢の続き・・・80

V 明日は君と

- *風と雨と君と・・・81
- *秋から冬へ・・・82
- *贈る言葉・・・83
- *花と話そう・・・84
- *けじめ・・・85
- *愛のかたち・・・86
- *告白・・・87
- *愛しい人に・・・88
- *6月の恋・・・89
- *ひたむきなこと・・・90

- *もう一度会えたら・・・91
- *いつまでも・・・92

- *いつものように・・93
- *いつか晴れたら・・94
- *夢をのせて・・95
- *泣いてくれますか・・96
- *花の精と・・97
- *あしたの風・・98
- *春の夢・・99
- *白い花は・・100

ふりむけば

I - 1

—ふりむけば—

ふりむけば君がいた
今はもういないのだけれど

眼を閉じれば・・・
あの頃の情景が浮かんできて
誰もいないのに
元気だったと声をかけてしまう

ああーもういないんだ
そう思うと・・・
何故か瞳を濡らしてしまう

そうか天国だものなあ
いいところなんだよね
一度ももどってこないし
最近夢のなかでも見かけない

うーん・・・
時を刻みすぎたのかな
でもこんないい天気で
雲ひとつない青空っていいなあ

ふりむいても君はいないのに
何処からか声が聞こえてきて
ふりかえってしまった

I -2

-瀬戸内-

ああ一せとうち
見覚えのある
懐かしき景色に
胸が躍り・・・
瞳からは何故だか
涙があふれます

ああ～我が故郷
お元気でしたでしょうか
瀬戸内にある・・・
僕の麗しきふるさと

今日もまた帰って来て
あの時の飽きのこない
友だちのような景色に
ゆったりして・・・
風景との会話を
楽しんでいるのです

かがやく日

1-3

－かがやく日－

僕は不幸だった

僕は幸せだった

すべては命果てる日に

ハッキリするというけれど

あの時は良かった

あの頃は

心もゆたかで燃えていた

そしてかがやく日があったと

そう思える日が幸せだったのだよ

誰かが教えてくれた

あまりにも些細なことだから

忘れてしまっているらしい

僕のかがやく日は

何時だったのだろうか

今は思い出せないことも

その日になると

脳裏を駆け巡るのだろうか

今になって思うかがやく日は

君を愛することのできた

あの日だったと思うのです

恋する少年

1-4

—恋する少年—

うーん・・・って
遥か昔を思うとき
あれもあった
これもあった

そして一番記憶にある出来事
玉拾いをしてくれた少女
これって中学生の頃なのです

僕は卓球部に入っていた
体操部に所属の少女がいた
時間が出来たのか
同じ屋内練習場・・・

何故か僕の後ろで玉拾いを
そして小柄で可愛いし・・・
今思うと好きな少女だった

有り難うと
礼をするたびに
彼女の瞳が輝いてる

これって
初恋なのかなあ
今思うと玉拾いをしてくれた
ただそれだけで終わっちゃうなんて
とても残念なことなんだと

いつかその日に帰ってみたい
でも帰ってみても
何も変わっていないだろうと

思い出ってそういうものだから
懐かしくっていいのかもしれない
恋する少年・・・
僕は今もそうなのかも知れない

好きだった

1-5

—好きだった—

いや好きだったけど
今も好きなんだ
どうしょう・・・
こんなことって

胸がドキドキ
顔を見るだけで
呼吸が苦しくなる
話しかけられたら
きっと倒れてしまうだろう

ねえどうしたのこの人
あのね君が大好きなんだって
君が悪いんだぞ
話しかけるから

気がついたら
手を握ってあげて

ドキューンドキューン
次は救急車を呼ばなきゃ
そうなるかも知れない
ピーポーピーポー
ほらほら早速やってきたよ

あれえ？
倒れていたのに大丈夫
うん・・・ありがとう・・・もう元気だよ
そしてね不思議なんだ
好きな人に対する
免疫ができたみたい
僕からも話しかけると思う

明日へと

1-6

—明日へと—

いつも思ってるんだ
早く明日にならないかなあ
今日が楽しくて愉快じゃないと
はやく早く明日になあーれと

自分の気持ちしただし
ネガティブに考えるからだよ
明日も同じようなもんだよ

分かってるんだけど
ポジティブに考えるのって
理屈っぽくて面倒くさいんだ

そうかそうなんだ
嘘をついてもいいんだよ

そういえば心は泣いてるのに
笑ってる人って大勢いるよね
皆・・・うそつきなんだね

でも良く考えてみると
嘘をつきながら生きるって
何故か楽しくって愉快的な感じだよね
僕も明日からそうしてみるよ

うーん・・・不思議だ
今日から愉しくなってくる

光の子

1-7

—光の子—

むかしから何故か夢見てた
光の大きなエネルギーで
僕に大きな力を下さいと
そう願っていたのだ

今ここに光になってるんだ
そうなんだもう光の子なんだ
なんでも出来るぞ

もう何も怖くない・・・
前に進むのみって
本当にこのことなんだ

光の子・・・
主に結ばれて光となる
この日を今か今かと
待ち望んでいたのです

輝いているか

1-8

—輝いているか—

君は輝いているか
日本は輝いているか
ふるさとは輝いているか

ずっと輝き続けて
ずっと生きながらえて
幸せを見つけたか
生まれてきてよかったか

そうかそうか
生まれてきて良かったんだ

愉快的ことや
楽しいことがあったか
夢をいっぱい見たか

よかったよかった
そういえるように生きないとね
僕は未だなんだ
半分も楽しいと思ったことがない

でもあと残り少ないと
気配を感じてからは
不思議なことだけど
とても良い思い出が
続いているんだ

だから一日一日を
大切にしないとね
ところで君は輝いているか

今日はね

1-9

ー今日はねー

何か良いことなのかなあ
声の感じからして
きっと良いことに違いない

表情をみれば一発だよ
いい笑顔してるからね

いやいや実際は
大変な事件かも知れないよ

今日はね

実は・・・

これってヤバイ予感が
なになに？どうしたって

なあーんだ
そうだったのか良かった
良い知らせって嬉しくて
一日中楽しいよね

思い出

1-10

— 思い出 —

思い出って

思い出すものじゃなく

探すものなのだろうか

なかなか・・・！？

思い出せないものだから

あきらめてしまっ

でも何故だか

夢の中で思い出したり

探しに行ってみつけたり

写真を見て思い出したり

思い出探して？

昔の友人に会いに行ったり

古いアルバムを見たり

恩師に会ったり

うむうむそうなのだ

思い出さなきゃ

探さなきゃ駄目なのか

それじゃ思い出探しに

今から出かけて来ます

誕生日

I -11

ー誕生日ー

生まれた日
そして未来へ
そして明日へ
授かった命の日

長く元気で健康に
今を大切にしたい
生きること・・・
誕生日からスタート

先のことは分からない
でも一日一日を
しっかり生きていく
生まれてくるときは
ひとりだから
でも一人じゃ生きていけない
それが分かるのはもっと先？

とにかく誕生日おめでとうと
自分自身を祝っている

冬のうた

1-12

－冬のうた－

何故か淋しい冬模様
今冬も一人で我慢できるのか
いつもそう思いつつ
冬を過ごしてきた

冬の歌・・・

何処からか淋しく聞こえてくる
何処のうち（家）だろう
何故か訪ねてみたくなる

お元気ですか？

少しお話しませんか

好きな詩の季節なのか
淋しいからなのか
胸の中は・・・どんどん？
不思議に詩で埋まってくる

淋しく悲しくなる詩はいやだよ
同じような淋しい人がいてるよ
そう思う人のいてることが
励みになり詩を書いている

いろいろな冬のうた
冬の情景を思いながら
僕は今日も口ずさんでいる

ひとりで歩く

I-13

－ひとりで歩く－

一人で歩く

これが日常のことなのだが

でも一人より二人

二人より三人

多いほうが楽しい

一人で歩いてると

ご一緒してもいいですか

ええ・・・いいですよ

歩くの遅いですが

話をするだけじゃなく

不思議に安心感がある

これってなあーに

ましてや大好きな人なら

余計に楽しいことなのだ

一人で歩く・・・

二人で歩く・・・

大好きな人と一緒に

一人で歩くより楽しい

このままずーと

歩いていたいのです

I-14

—愛LOVE YOU—

この想い・・・
あなたに届いて欲しい
いつもそう願ってるのに
何故かしら
まだ届いていない？

だって！！
あなたの態度が
全然変わってなくて
あなたの照れ隠しならいいのに
そんな感じを見せないんだ

ポーカーフェイスって
いやいやそんなあなたじゃない
えっ！
ひょっとして
ほんとうにそうお
そうなの知らん顔して

本当のこと
誰か教えて欲しいなあ
私・・・
愛しています
I LOVE YOU

I-15

－希望と感謝と明日へ－

いい街いい空気いい環境
希望と感謝と明日へ
希望が気泡にならないよう
しっかりと足元をみて
明日へ向けて
歩いて行こうと決めた

いい1年になるといいなあ
終わりよければ総てよし
誰かがやるじゃなく
自分自身が先頭になって
やっていこうと思っている

先ずは一步前へ
進んで行こうよ
誰かが後からついて来てもいい
何かが始まる第一歩

希望と感謝を持って
未来へつないで行こう
機先を制して先ずは
一步前へ進んで行きます
あなたが最初に進んでくれたからと
そう感謝されるようにネ

不可能

I-16

—不可能—

無題って

そんなことは許さない

不可能って

そんなことは

あってはいけない

決してなのだ

身をもって行動したか

何もやっていないじゃないか

出来ないなら

人を使ってでもやってみろ

不可能

それは何も出来ない

だらしなさを意味する

失敗したか

打ちのめされたか

そうかそうか

じゃあ可能性に一步前進だ

雨ふるる頃

I-17

—雨ふるる頃—

雨かいややなあ

いえいえ！！

これはこれはいいチャンス

雨ふるる頃

好きな人と

腕組して相合傘だろう

随一の恋の恵み？

雨の中を二人して歩けば

雨音もステキなミュージック

少し大人になったような

そんな気がするのです

明日も雨にならないかなあ

いやいやずーと雨でいい

好きな人と一緒だから

1-18

—冬萌ゆる—

わあおー雪だよ
本能的には雪が大好き
雪だるまじゃ雪だるまじゃ
そうってはしゃいでいた

何故か遥か昔のほうが
暖かかったのかな
自身の身体が弱くなったのか
単なる寒がりやになったのか

小学校のとき
雪だから
体育の時間は雪合戦だぞ
チーム編成するから
皆あつまれえー

雪が積もるって
少ない地方だから
先生まではしゃいじゃって
体育の時間はまだなのって
待ちどうしいたらありゃしない

そして大好きな人とは
お揃いの長靴を履いて
雪道を歩くんだ・・・

寒いねえといいながら
互いにあったかーいと
力を入れて抱き合ったりして
もう大変なことがおきます
何故か僕は冬萌ゆる頃を
思い出しているのです

私をスキーにつれてって

いいよ・・絶対泊りがけだからな

わあーいいなあいいなあと

子供のようにはしゃいでしまうのだ

探しものは

1-19

—探しものは—

探し物は何ですか
大切なものですか？
見付きそうですか

余計なものまで
どんどん出てきて
肝心のものが出てこない
探し物ってこんなことか

結局はどうなったの
見付きましたか？
見つかるといいね

実はね？探し物って
まだ送られていないんだ
な—んだ・・・
届いていない
探し物だったんだ

でも届けられるって
先ずは・・・
でたしめでたしなんだ
よかったじゃない

母の愛

1-20

—母の愛—

わたしの子よ
いつも一緒だから
愛する子よ

永遠（とわ）に眠り
明日への素敵な
夢を見て・・・
希望の道を歩くのよ

わたしの子よ
いつも一緒だから
愛する子よ

愛いっぱい
わたしの子守唄を
良く聴いて・・・
元気な子に育つよ

永遠につづく
わたしの子守唄
今日もわたしの愛を
心をこめて届けます

初めての

II-21

—初めての—

初めてと名が付くと
不思議にドキドキ

初めてのデート？
いやいやそうじゃなくって
単なる無料体験

何はともあれ
初めてって
大好きな女性と会うようで
心までときめいてしまう！

初めての
はじめての・・・
そうかそうか初めてなのか
まあいいんじゃない
心躍ることって

ショートボブ

II-22

ーショートボブー

おかつぱのエアスタイル？

何処かで見たとような

今は遥か昔のこと

なつかしき昭和・・・

おかつぱ頭の少女たち

みーんな同じ顔に見える

そんなことないでしょ

でも小さな頃に・・・

良く人違いしてたような

しっかり前を向いて

顔を見ないとね

これって眼と眼があって

何故かはずかしいんだ

ショートボブって

髪を洗うのも楽そうだし

無精者の髪型って

そんなことないよ

これはこれで大変なんだから

ショートボブ・・・

不思議に今頃になって

何故か好きになってきた

夢の花

II-23

—夢の花—

夢のお花畑

夢の花が咲いている

あちらこちらと近くに行けば

こちらからいらっしゃーい

いやいやこちってだよ

どちらから花を摘もうかと

こんなにもたくさんあると

どれがいいか迷ってしまうよ

こんなに楽しい夢があるんだ

じゃあ順番に摘んでゆくの

そうそう素敵な花瓶を用意してるんだ

そしてね内緒だけれど

花瓶の底に番号を書いているんだ

今日から毎日

ひとつずつだけど

夢の花を訪ねて行くの

そしてね見終わったら

お花畑まで感想など・・・

お話ししながらお見送りするよ

君の誕生日

11-24

ー君の誕生日ー

うーん・・・？

今日こそだよ

頑張ってみよ

プレゼントするって

告白するチャンスだからね

メッセージだよ

決めてはるって？

いやいや品物だろう

いや心に届く気持ちだろう

僕はp o e mにするよ

縁どりもして

イラストも描いて

贈り物は好きな人が

大好きな指輪に

まあまあ気負わないで

頑張るんだよ

応援してるからネ

性格

II -25

— 性格 —

気配りが出来る性格

自分本位な性格

親を見れば子が分かる

子を見れば親が分かる

この親あればこの子あり

この子あればこの親あり

なるほどなるほど

そのとおりだ・・・合ってるよ

良いこと悪いことの様々なシーン

良しき悪しきにしろ

皆が気にかけたら

いろいろと思っている

親の顔が見てみたい

子供の顔が見てみたい

良い性格は似て欲しい

ホントだよ

性格って同じじゃなくって

個性があるのが良いよね

II-26

ー薄くって軽いー

薄くって軽くって

見た目もいいしね

軽薄短小って？

物について・・・

軽くて薄く、短く小さいさま

なんか昔に聞いたような

このフレーズ！！

結構人気があったのだ

機械製品や電気製品などの

軽量化・薄型化・小型化を表すんだ

今はあまり使わないような

ついに常識になったのか

そしてね一番は

文化的な面にも使われたり

うちんところは文化的だぞって？

自慢したりいー

軽薄って言葉は好きでない

言葉や態度が軽々しくて

思慮の深さは欠けてるし

誠実さが感じられないって

短小も気にかかる言葉やなあ

誰が考えるんだこんな四字熟語

ほんとうしょうもない

もっと勉強しろ・・・って

切ない気持ち

II-27

一切ない気持ちー

切ないきもち・・・
いつもいつもそうなんだ
だから恋をするのが怖い
勇気を出さなきゃと
そうは思っているのです

でも失恋って
切ないほんとうに
せ・つ・な・い
心まで病んでしまう

今度こそと意気込んだ分
ショックが大きすぎて
今日は会社を欠勤するよ

なのにまた・・・
好きな人が出来て
懲りずに恋をして
不思議に元気が出てくるのだ

切なくなった数だけ
恋をするのも上手になった
この頃はそう思っているのです

何事も

II-28

—何事も—

今まで・・・ほんとうに
真剣に向き合ったか
こんなことはいい加減にしとこう
そんな気持ちはなかったか

信じて真っ直ぐに
前を向いて努力すること
自分の光を見つけて
歩んできたのか

とんでもないことばかりで
失敗ばかりしてる
今からでも・・・
一からしっかり見つめて
夢を追いかけようとするのだけれど
力足らずして挫折して
諦めている現実がある

何事も気負わず
出来ることからじゃないかと
今頃になって
少しずつで良い
一歩一歩進んで行こう思うのだ

夢みる頃に

II-29

— 夢みる頃に —

嬉しいことは毎日でもいい
あなたと二人きりだから
ずーと楽しいのかも知れない

いつも夢みるようなあなただから
今日はどんな話をしてくれるの
燃える心に響くあなたの声

今から不思議に胸がときめいている
でも明日って日を考えると
少し不安になるの幸せすぎるから

いつも思うのこんな些細なことだけど
幸せすぎるような日々はいつまでも欲しい
春が近づいてくと何故だろうか
夢みる頃って心も春なのかしら

どうしましょ

//-30

—どうしましょ—

迷ってるときなんか
うーん・・・どうしましょ？って
いろんな行事と言うか
予定と言うか・・・
天候のこともあるしね

スケジュールの調整が
難しいんだけど
とりあえずは確定申告？
車検があったり同窓会もあったり
少し先では嫌な癌の治療があり
多分大丈夫と思ってるんだ
どうしましょ・・・ほんとうに

いろいろと迷ってる
行動してしまえば
不思議にあっという間
直ぐに終わっちゃうかも知れない
ほんと・・・
どうしましょ

II-31

—あの頃あの時—

あんなことや
こんなことや
いろんなことを思い出して
そうやったそうやったと

懐かしいことって
妙に楽しいことが多い
冒険者的な出来事は
特に記憶に残っていて
当時は思い出したくない
シーンもあったはずなのに
今思えば何故か懐かしいのだ

あの頃その頃？
僕たちは・・わたしたちは
何をしていたんだ
歯がゆい出来事ばかりなんだ
それがあるから
しっかり覚えていて
今ならこうするんだけどね

思い出に突っ込みを入れたりして
何故か可笑しくなってくる

さよなら

II-32

— さよなら —

別れって単純で
さよならって言葉だけで
分かれてしまうって
ほんとうに淋しい

あの頃は・・・
また会うためのさよならだから
多くの思い出がいつも一緒に
さよならするのも楽しかった

ほんとうの別れって
したくないのに
それが現実になると
泣けてきて言葉も出ない
さようならありがとう

もう会えないなんて
信じられないのだけれど
本当なんだね

さよならって動く口元を
見るのが辛くって
瞳を閉じてしまった
そして何故か涙が止まらない

みんなのお風呂

11-33

—みんなのお風呂—

最初は誰だあ

白くまさんがお風呂へドブーン

おサルさん次だよーん

それー続けえーって

群れになってだからね

ジャブーン・・・パシヤン・・・ぽちやーん

小さいおサルさんて可愛いね

それじゃワシも入るかのう

象さんも入っちゃうの

ドドーン・・・ブアーン

うわーお湯が無くなっちゃうよ

みんないいお湯ですか

それじゃ僕も入るぞ

最後なのかな・・・ぴちゃん・・・！！

//-34

—NAIVE—

最近になってそうだよ
号泣したり笑ったり
純粹で傷つきやすい？
飾り気がなく素直
単純で未熟

簡単に言えば
老人になったから
むしろ言うことを聞かなくなった
同じことばかり言うって？

不思議に好きな言葉
ナイーブ？
どこでも何度でも使って
意味をなさなくなってるのに
またまた使ってしまった
何故か僕のフレーズになってる

気が弱くって
怖がりで臆病で
逃げてばかりいたのに
逃げれなくなったから
NAIVEなのだ

あなたへ

//-35

—あなたへ—

いつまでもいつまでも
私が亡くなっても
私の心のなかには
あなたがいますよ

ここに来たら
私と一緒にお話しましょ
何時でも待っているからね
そうそうお花は
野の花の一輪でもいいから
私に下さいね

いつでもいいから
気の向いたときに
遊びに来てね
それからね・・・
元気でしたか？

ここからは・・・
あなた達の様子は見えるけど
聞いてみたかったんだ
みんな元気かなあ
大変かも知れないけど
一生懸命頑張るんだよ

//-36

—家路—

何処にいても
遠くにいても近くにいても
今は何も感じない道なのに
時がほどよく過ぎてしまうと
不思議に懐かしく心が休まるんだ

君と歩いた花咲く道
叱られて涙を落としながら通った道
今はもう遥か昔のこの思い出を
何故か思い出しては
心豊かになってくる家路の風景に
明日（あした）からは・・・
毎日歩けるのだと思うと
心が騒いで眠れない

ましてや夕陽を背にすると
大好きだったあの人が
傍にいてるようで愛おしくって
うれし涙が出てしまう
そんな家路が待ち遠しくって
青春の清々しい頃の思いが
ずーと心に残っているのです

行動

//-37

—行動—

何も気にせず

何も考えず

ただ単純にやりたいからと

思い立ったまま

疑問も持たずに

ほんと無謀と言うか

何と言うか

行動って・・・

不思議の冒険者の

言い訳になっている

やらずに後悔するよりは

なるほどね・・・そうかそうか

先ずはやってみて考えよう？

走りながら考えよう

えらいフレーズが

力強く感じたこともあった

ふりかえってみて

やっぱりじっくり考えて

心に聞いてみないとね

行動・・・

いい言葉で大好きなのであるが

//-38

—しっぴつ—

僕だけなのかも知れない

執筆って・・・

不思議に遠い雲の存在のような

そこには・・・なにになに家（か）？

小説家（か）や著述家やら

そしてそして

作家って言葉の響きも

プロフェッショナル的で

何故だか偉い人だけが

使えるような気がしているのだ

不思議に漢字からそう感じてしまう

文章を書くって言うと

そんじゃそこらにある

日常のような気がして

子供も大人も誰でもって感じで

威厳などは感ぜられない

それから執筆屋やら物書き

このようになってくると

軽い言葉のイメージがある

へりくだった言葉のようで

少し軽蔑的な気がするのだ

執筆・・・？

実は今日も執筆中なのである

さよならの向こう

//-39

ーさよならの向こうー

君へあなたへ
そして皆さんへ
さようならまた明日・・・
実はその向こうでは
大きなことを
言ってしまったのでは

これでよかったのか
大舞台ではないにしろ
自作自演って初めてだから

いやいや・・・
はるか昔にかすかな記憶が
おおむかしだけど
すこしは経験してるじゃない？

いつもやってることを
人前でするだけじゃないか
いつものように自然に
特には何もせずに

さよならの向こうは
大変なことになってる
いやいや・・・
なってなんかいないよ

無視したこと

II-40

－無視したこと－

こんなこと実害じゃないし
神経質な性格から
いつから脱皮したのか
しつこい性格じゃなくなったのか

いや面倒くさくなったのか
だから無視してしまった？
それも記憶に無いほどの
ながい期間・・・

おおおー
でも何が幸いするのか
不具合を直そうとして
それで他の何かが解決したり
不思議なのであるが
良い芽がでることがある

掃除もしてみるもんだね
長いこと放置してたところから
宝物的な物が出てきちゃった
無視することもいいのかなあ

春ですねえ

///-41

ー春ですねえー

春風に乗って
春が来た来た
菜の花畑

春の香りは
街中に溢れでて
心もうきうきします

何故なのだろう
春だからって
春・はる・ハル・Spring

春だねえ
良い季節だ
花見をしましたあ
すごく良かったよ

今だよね
最高の心地よい季節
長い冬を耐えたからね
うれしくってたまりません

優柔不断

III-42

— 優柔不断 —

ゆっくりでいいよ
無理に決めなくても
でも決める時は決めるよ

ぐずぐずしてもいいじゃない
もう少し待って
もう早くしてよ
いつまで待たせるんだ

ためらって
躊躇して、逡巡だから
思い迷うって
こんなときは諦めて止めてしまおう
その勇気が大切かも知れない

諦める勇気って
相当な覚悟だよ
もうそこまで来てるのに
引き上げるって

失敗を恐れぬって
何か死を恐れないと同じような
そんな気がしてためらってしまう

優柔不断でいいじゃない
でもね・・・
これだあって思ったら決めるよ
同じ意味でも優遊不断が
的を得た表現かも知れない

///-43

—嘘・うそ—

とにかく嘘ってよくないよね
でも嘘って・・・
現状からの逃避だったり
何かの拍子に遠い記憶の
扉が開いちゃうんだ

だから思い出したついでに
リンクしてる他のいろんな事まで
急に思い出してしまう

そして嫌な記憶なのに
思い出してみると案外愉快で
不思議に楽しいのだ
嘘は罪なのに
時間と共に許されてしまっている

えっそんなことまで思い出したの？
でも悪い嫌な思い出なのに
あの頃はほんとうに嫌でも
今思うと楽しい出来事だよ
子供だったから
未来の夢時計が
時を刻んで楽しい思い出に
してくれたんじゃないか

雲ながるる日

III-44

－雲ながるる日－

空を見た
今日は少し違う
雲が川のように流れている
墓標を求めて
行き着くところまで
流れているようだ

空を見た
朝陽を見てしまう
夜になると
不思議に月を見て星を見る

青い空が一番大好きだ
藍よりも青く
何処までも続く空
天国に続いているって
誰かが言った

雲ながるる果ては
天国だろうか
青空の果てを
ながるる雲が教えてくれている

川面

III-45

－川面－

川面が宝石のやうに輝く頃
何故か鳥たちが集まってきて
いっせいに川面をすべるように
飛んでゆくのだ

魚を狙っているのか
水しぶきを上げ
・ ・ 見事である
くちばしに魚が見える
空に向かって飛び立ってゆく
そして川面の飛沫がまた ・ ・
宝石のやうに輝き始める

今日だけじゃなくって
いつもの光景であろう
自然の営み
眺めているだけで
満足した私がいる

いつもの川面
何事も無く川は流れ
宝石のやうに輝いている
些細な景色の中で
私は小さな幸せを感じている

そよ風

III-46

—そよ風—

手をつないで
二人して
緑の公園にいます

爽やかな
緑の風・・・
胸いっぱい
深呼吸をして

なにごともなく
また手をつないで
歩きだす

これから
何処へ行こうか
平凡なこんな一日
何事にも変えがたい
ゆとりの時空・・・

そよ風と一緒に
二人して歩く
素敵な季節・・・
薫る薫る若葉がかおる

別れと出会い

III-47

－別れと出会い－

別れって悲しくて淋しい
でもほんとうは会おうと思えば
何時だって会えるのだから
死別じゃないのだぞと
そう思うことで・・
前向きになれませんか

別れたはずなのに
不思議にまた一緒になっている
こんなこともあるのかと
少し嬉しいこともある

勝手に別れたと思ってるだけで
気持ちまで勘違いしてしまってる
でも考えてみると
心かよう日々だったから
ずーと一緒にだよと言ってしまった
これでいいのかなあ

新年度っていつも春だから
新しい友達が出来たり
恋人が出来たり

だから・・だから
良い出会いを大切にしたいよね
別れって言葉だけで
仮の別れだからね

若葉の頃に・・君の笑顔が輝き
光に満ちていついつまでも！
爽やかな素敵な笑顔に出会えて
明日も頑張ろうと思うのです

大好きだった

III-48

—大好きだった—

ラブレターを書いた
会うことはもう無いだろうと
確かにそうなのだ
ふられてしまったと思い込んで
だから好き勝手に書いた手紙

それが偶然に再会した
ごめんね返事しなくて
いいよ勝手に出した手紙だから
お茶でもご一緒しましょうか

そうかそうか兄妹って感じなんだ
何かと話しやすくて
いやいや同年じゃない
気兼ねなく話せて不思議に嬉しいって

いつぞやは
ガールフレンド連れてるところを
見られてしまった
君は言った
初めてだよね私が見たのは

次に会ったときは
ガールフレンドじゃないよ
長々と言い訳をしていた
今でも大好きな君だから

過ぎし日々へ

III-49

ー過ぎし日々へー

些細な日常のシ・ア・ワ・セ
日々の食事って楽しいもの
質素なかにも喜びがあり
贅沢三昧よりは
不思議に心が満足している

嬉しいこと
楽しいこと
愉快的なこと

何故悲しい辛いことがないのだ？
いやいや悲しいことがあるから
楽しいことがある
辛いことがあるから
愉快的ことがある

だから悲しいことや
辛いことがない
これって当たり前なんだよと
誰かが言っていた

過ぎし日々へ
思い出をありがとう
過ぎし日々へさようなら

未来の明日への道を
亡くなられた方々の命が
光り輝く明日へと導いてくれる
皆の命を・・・

僕の命を・・・
幸せにと紡いでくれてありがとう

過ぎし日々へありがとう

・ ・ ここに感謝します

爛爛ラン

III-50

－爛爛ラン－

楽しいことや
嬉しいことや
これってね？
良いことには
違いはないけれど

でも心に届いていますか？
何の邪魔にもならず自然に
心に届く歌声って
素敵なことなんだ

毎日聴いても飽きない
これってって何なんだ

僕はまた・・・いやいや
何度もなんども・・・
不思議なことに
いつも同じ歌ばかり

III-51

—好きなら—

好きなら好きと
はっきり言わないと
そうだよな？
良いお兄さんで
終わってしまうんだから

今思えば
とても勿体ないよね
きっかけ作りは・・・
とてもGOODなのにね

今思うから
そう言えるかもなのだが
その時は・・・
何が何だか混乱してて
会えるだけで
うむうむ！満足してた？

端からは冷静に
見えるんだけどなあ
仕事のように
巧く行かないよね

好きなら好きと
はっきり言わなきゃ
ごめんごめん
次からは頑張るよ

ちょっとしたこと

III-52

—ちょっとしたこと—

ちょっとした勇気と
ちょっとした心遣い
ちょっとした愛情

少し足らなかったかな
少しの些細なこと
何故か大袈裟に
考えてしまって

深く考えないでおこう
そう思っていたのに

明日からは
些細な日常でも
些細なことにも気をかけて

小さい愛を
大きく育てなきゃ
そう思っているのです

III-53

—輝く故郷—

かがやく故郷（ふるさと）
山があり川があり
海があり空があり
果てしなく続く遥か彼方
透き通った景色の中に
心優しき故郷が見える

今はいい季節
待ち焦がれた言葉
桜の花が競い咲くなかで
虹色の風がそよぐ故郷
美しき緑があり
雨音もやさしい音色を奏でて

今も未来も・・・
とこしえに輝く僕の故郷
明日への道しるべを照らし
後姿を暖かく見守ってくれる
私たちの故郷

この幸せを・・・
いつまでもいつまでも
ずーと続きますよう
豊かな今を心に届けて
故郷の思い出を
君のところへ運ぼうと思ってる

III-54

— 遠い国 —

遠い国 . . .

遥か彼方の国

風よ教えてください

私が昔に住んでいた国

今はどうなっているでしょう

私が恋したあの人を探して下さい

お元気だったでしょうか？

もしも？

もしもあの人がお元気なら

お願いだから伝えて欲しい

それとも . . .

私を連れて行ってくれますか？

あの人に会えるなら

とても嬉しいのです

でも？

私のことを . . .

想っているのでしょうか？

風の便りでは

会いたって聞きました

それともあの方は

もういないのでしょうか？

どうか教えてください

遠い国へ

今度はずーっと帰ってみたい

心かよう生まれたところ

あの人への想いと同じで

いつまでも愛おしく
大好きなのです

旅立ち

III-55

－旅立ち－

明日への旅立ち
誰も現れない
寂しいことったら

でも・・・
大好きな君だけは
来てくれた

僕はそれだけで充分
一人の旅立ちって
僕には良く似合う

成長した姿で
元気に帰ってきたら・・・
次の旅立ちは
必ず・・・
君と一緒にだよ

感謝すること

III-56

－感謝すること－

まずは自分自身に
感謝をしなきゃ
独りで・・・
生きてきた訳じゃないけど

周りの人たちに
いつも支えられて
生きてきた

しかし何時までたっても
そうは思えないのだ
陰で支えられてる
そのことが分かっていない

でも、でも・・・
こうして歳を重ねてくると
多くの人が支えてくれている
このことが自然に分かってくる

ほんとうに
感謝、感謝なのだ
何処かに掲げられていた掲示物
喜びと
感謝と
希望

喜びに心躍り
感謝にうれし涙を流し
希望に明日への夢を求め
私たちは生きている

感謝すること・・・

この言葉を大切にしたい

これから必要な言葉なのだ

明日の未来へ

III-57

－明日の未来へ－

ふり返っても・・・
しかたがないよね
いつもそう思っている
進むって・・・
前しかないのだから

明日へ・・・
誰が進むところ
希望と夢の道
そして
幸せを運ぶ未来への扉

明日へ・・・
みんなが進んでいる
太陽が沈みまた昇る
些細な単純な・・・
繰り返しの中に
夢があり栄光がある

明日へむかって
悩むことなく・・・
元気で進んでいこう

III-58

—いつも考えてる—

ああ—こうしたい
・ ・ ああしたい
こんなことやってみたい
あんなことやってみたい

身の丈にあった
些細な日常の生活
少しのしあわせ
少しの贅沢・ ・

今のこの日常が大切って
いつも考えてる
なのに・ ・
いろんな欲望が誘ってくる

今のありのままの現実を
じっと見つめて
なるほどねって
思っているのに・ ・

いつも考えてる
なのに・ ・
未だに些細な生活が
一番幸せなことを
なかなか分かっていない

いつも考えてる僕がいる
いつも考えてる私がいる
そして・ ・
何故かいつも考えてる

III-59

－生きる－

生きていて良かった？

いや・・・！！

生かされてよかった

まだまだ

やりたいことがあるんだ

死ぬに死ねないよ

誰でも・・・。

思い残すことがあれば

良いものじゃないし

気にかかるし

幸せで

もう思い残すことが

ないってことが

大事なんだと

いつも思っている

だから

一日一日を大切に

生きていこう

そう思いながら

結局はずさんな

一日で終わってしまう

あと少しだから

真面目に生活しなきゃ

こんな日に

III-60

—こんな日に—

あまりにも
使いたくない言葉だし
やる気も失せる

でもこんな日にを
乗り切ったら
なんか自信が出来たし
明日が見えてきて
心も晴れ晴れするんだ

こんな日に
どうしょうって
悩んでも仕方がないし

いつものように
何事もなかったように
やるだけなんだけどね

こんな日に？
何故か無駄なような
感じがするのだが

行動には
無意味なことってないし
だまって文句も言わず
しっかりやるか

好きな人

IV-61

—好きな人—

今も大好きなひと
いつまでも大好きな人

愛の続きを
待っている人？
いつまでもいつまでも
老いてしまってもね

別れても
やっぱり好きな人
また会っても
久しぶりね元気だった？

そうなんだ
やっぱり好きだった人は
いいなあ

最悪なこと

IV-62

－最悪なこと－

長く・・・？

人間というやつをやってると

最悪な出来事が

ひとつや二つはあるものだ

最悪を経験と言うか

体験してることって

少しは人間として

強くなれるんじゃないかって

最悪・・・？

基準ってなあーに

人それぞれなのだが

試練を与え給われし事？

不幸だけはいらないんだけどね

でも何かの時に

話のネタの一つぐらいには

なるんじゃないか

実は最悪なこと？

僕には必要ないのですが

忘れ物

IV-63

－忘れ物－

好きだと言って
愛する人の心の中に
忘れ物をしてしまった

気付くのが遅いんだけど
だから・・・大切な
忘れ物をとりに行くまで

いくら悲しくて
辛いことがあっても
泣かないでおこうと
思うのです

涙は愛する人との
最後の別れに
残しておきたい

涙は忘れ物と一緒に
僕のところに戻ってくる
心の道しるべなのだからね

何故か・・・
昔のことを思い出して
そう思うのです

遙か彼方

IV-64

— 遙か彼方 —

遙か遠い果てに
何時たどり着くのか

そんな
気の遠くなることを
思い巡らしている

そして・・・
日々の雑用の中で
月日が過ぎてしまい
いつしか遙か遠いことも
近くに近づいていて

手を伸ばせば
もうそこまで近づいてる
春ってそんなものだよって

遙か彼方って
日が過ぎりゃ
あっという間だよ

それはそうだけど
遙か彼方って
やはり長いよね

ほんとうだ・・・
好きな人に出会うのと
同じように
長い長い道だよ

新しい日に

IV-65

—新しい日に—

陽がまた昇り
沈む間もなく
また昇り・・・

心のなかにも
陽があたり・・・
僕の時計が動き出して
一日が始まるのだ

そして
僕の大切な時間が
過ぎてしまう

新しい日に
悩み苦しむって
避けたいのだけれど

あえて心のなかを
リセットするのに
とても良いことなんだ

新しい日に
何故だかそんなことを
考えている僕がいる

今日から

IV-66

—今日から—

生まれ変わって
新しい命ができたって
そう思って・・・
その日を大切にしなきゃ

あきらめた命・・・
助かったって思ったら
これからは
良い一日にしよう

そう思って
どこまで生き長らえるか
残り少ない日々を
貴重に思うのである

命って何だろう
命があるから
楽しいことがあり
未来がある

君のおる道

IV-67

－君のおる道－

晩秋の頃に
君と歩いた堂島付近
少し寒くって
僕のコートを君の背に

ありがとうって
とっておきの笑顔で
君は頷いた

何故か・・・
手をつないだ力が
強くなった

気をつけてねって
段差に反応して
しっかりと握ったのです

じっと見つめると
はにかんだように
君の笑顔が返ってくる

君のおる道・・・
いつも一緒に歩いて
みたいと思っている

おまえは何をした

IV-68

—おまえは何をした—

おまえは・・・？

おまえは・・・今まで何をしたんだ

俺は戦争のために死んでしまったが

これも愛する国を守りたい一念だったんだ

おまえは何をしてくれたんだ

いままで何をしていたんだ

平和を守るために

少しでも

反戦の運動をしてくれたか？

いつもなのだが慰霊祭の日が来ると

犠牲になった人々の声が聞こえてくる

そして・・・何故だか？・・・なのであるが

もし今も戦争で戦ってる時なら

志願したであろう自分の姿が表れるんだ

それも何かで記憶してる！！

・・・特攻の戦闘服を着ている

そりゃあ勇ましい姿だぞと

自分自身で思っているんだが

ほんとうはこんな勇ましい姿は要らないんだ

顔は涙で濡れてびしょびしょになってる

だから・・・だから

仲間と声を出して・・・はちまきをして

デモ隊に加わってシュプレヒコールをしてるんだ

そんな仲間がだんだんと数が増えてきて

とんでもない数となって・・・町々を行進してる

ああ変な夢を見たなあって今日も朝を迎えている

雲ながるる果てに

IV-69

－雲ながるる果てに－

雲ながるる果てに

あの日・・・

8月6日の出来事がある

きこの雲に

よく似た雲を見つけると

現実とは思えない

光景が浮かんでくる

雲ながるる果てに

8月9日の出来事がある

もう思い出すのはごめんだ

・・・と言いながら

夢に現れるのだ

何故なんだ・・・

戦後に生まれた僕なのに

こんなことって

死ぬまで続くのだろうか

むかしに見た映画なのに

あの光景だけは

忘れてはいないのだ

はるは春

IV-70

－はるは春－

春の訪れ・・・
春ですね？
はるは春です

春の装いも
待ち遠しい

コートを脱いで
身軽になって

大好きな君と
手をつないで
街へ繰り出すのです

ミニスカートの君は
スカートを
風になびかせて
軽やかに歩いてく

桜の花びらが
舞うように

君の笑顔が
はじけてる
はるは春なのです

IV-71

— 妖精 —

誰かいるのか
いるなら出てきなさい

今度は低い声で
ほんとうに
誰かいるかい

すると
霧の中から
静かにしてって
声がするのです

今いいところなんだから
耳をすませてみると
歌声が何処からか
聞こえてくるのです

目を凝らして
じっと見てみると
妖精たちが
コンサートをしてる

いつぞやに
聞いたことのある歌だ
思い出そうとしても
思い出せないのであるが

そのうちに
歌も聞こえなくなって
妖精もいなくなった

誰かいるなら出てきなさい

読んでも返事がないのです
そして不思議なことに
辺りがまぼろし模様
になって来て

今度は
僕の心の中から
妖精たちが
歌っていた歌声が
聞こえてくるのです

移りゆく日々

IV-72

ー移りゆく日々ー

梅の香りすぎて
桜の香りもすぎて

大好きだよって
紫陽花の花に
語りかけたのも
ついこの前なのに

今は
向日葵を見つけて
頑張ってるねって
声をかけ

そして
僕も疲れてるのに
不思議に
元気をもらって

移りゆく日々を
何事もなかったように
過ごしているのです

過去

IV-73

—過去—

過ぎし日の
すぎし日の想い

今日・・・？
明日があるから

過ぎた出来事を
懐かしんで
思い出すのです

あの頃は
必ず良かったと

悲しいことも
あったはずなのに

思い出すのは
楽しかったことばかり

これが僕の
過ぎし日だったのだ

雨の朝

IV-74

— 雨の朝 —

外は何か物静かで
時に響く人の足音

人恋しいような
猫の鳴き声

周りの木々からの
小鳥のさえずり

しっとりした
この季節・・・

雨の朝は
ポエムが浮かんで
心が開くのです

新緑と若葉が香り
雨に濡れた緑に
滴の玉が
光かがやきます

そして・・・
緑は映えて
雨の音とともに
今日一日が
始まるのです

初恋×2なのです

IV-75

－初恋×2なのです－

手がかかるく
ふれ合う度に

心にまで
あなたへの想いが
募ってくる

二度めの
初恋みたい

瞳をじーと
見つめ合っていると
やはり初恋の気持ち

この心模様は
あの時と同じ

そっと
唇を重ねると
やっぱり
レモンの味がした

山は山

IV-76

－山は山－

山はやま・・・

海はうみ

あるべき姿に

感激したり

山が海に

なることはない

海が山に

なることはない

無理なことは

無理なのです

だから山はやま

海はうみ

見るべくして

見てるから

美しい・・・

ほんと

美しいのです

山も海も・・・

死と太陽

IV-77

—死と太陽—

見つめておれない
ものがある
愛する人の死と太陽と
そして・・・雪の輝きと

眩しくって眩しくって
それから
何故か涙が出て・・・
じーと見ていられない

素敵な君の輝く笑顔も
太陽の輝きにも増して
眩しいのです

今日の朝の雪と
輝く朝日と・・・
そして君の笑顔と

スタート

IV-78

－スタート－

よおーい
始めって
叫んでみると
なかなかいいものだ

自分が走っても良いし
人が走っても良いし

かけ声で
何かを始めるって
楽しいよ

よおーい
まだまだ
よおーい

もう良いかい
なんか
かくれんぼみたい

はやく
始めって
言ってよ

鳥たちが一斉に
飛び立つって
鳥たちもよーい
始めって
言ってるのかなあ

変わりゆく日に

IV-79

－変わりゆく日に－

日常のささいな
ひとりの出来事に
さよならして

明日からは
いつもと違った日に

そうなのです
変わりゆく日に
なるのです

僕だけでなく
大好きなあなたも
いつもと違った日に

明日は
二人にとって
記念すべき日

未来に向かって
歩いていく日なのです

楽しいことも
悲しいことも
二人で進んでいくのです

IV-80

－夢の続き－

良い夢を見たら
続きを見たい
そんな素敵で
楽しい夢は
毎日でも見たい

良いところで
目覚めると
余計にこの先
どうなるのだろうかって

気になる夢って
うれしいことだけど
続きを見るとなると
何故だかドキドキ

前のストーリーからの
展開がどうなるのか
また大好きな女性と
会えるのだろうか

続きを
見てもいないのに
そわそわ・・・ワクワク
心まで落ち着かない
夢の続きって
やはり早く見たい

風と雨と君

V-81

—風と雨と君—

風・・すすきの中を
手をつないで
走った日を想う

雨・・
相合い傘で
歩いたあの時
傘を目隠しに
抱擁したあの日

濡れるよって
言ったのに
いいのよって
君の可愛い笑顔が

君といるときは
何故か
風と雨の日
ばかりだった

だから・・
だから
いつまでも
覚えているんだね

秋から冬へ

V-82

—秋から冬へ—

色とりどりの
秋模様が過ぎて
心の中に寒さが
通りすぎる頃

僕は静かに
冬の訪れを
待っている

そうなのです
この季節がくると
愛しい君が
遠いところから
僕のところへ来るのです

僕と一緒に
寒い冬を過ごすために

そして
春になる頃
また遠いところへ
帰っていくのですよ

贈る言葉

V-83

—贈る言葉—

愛しき君に
会えた喜びを
想う今日の日

ほんとうに
ありがとう

明日からの
夢と希望が
叶いますように

愛しき君に
贈る言葉
愛していますと

花と話そう

V-84

－花と話そう－

淡いピンクの花びら

可愛いよね

この色は・・・

女性なんだよね

耳をすまして

じっと見ていると

あまり見ないでって

声が聞こえます

少しハスキーボイス

朝晩は寒いので

風邪をひいちゃたかな

毎日でなくていいから

時々外に出て

話しかけてね

つつじの花びらって

話すんだね

花の精が

いるんだよね

はじめ

V-85

－はじめ－

実績の記録

去年のまとめ

申告

1年を振り返る

・ ・ 反省会

告白 ・ ・

初挑戦

心の洗濯

新年

クリスマス

結婚式

初詣

えべっさん

占い

海外旅行

入学

卒業

入社

朝礼

初出場

手術

仇討ち

国家試験

散髪

定年退職

給料日

祭り

なぜか禁酒 . . .

登山

入門

V-86

—愛のかたち—

好きな音楽が・・・
ジャズが流れる
黄昏の喫茶店

ガラステーブルに
君の面影が
写っている

あの時も同じ
音楽ですね

あの日をことを
駈け足で思い出す

後ろを向くと
何故か君がいる
いつから来てたの

静かにそっと
君の手を握り
席を立つ

同じ思い出の
あの日に帰ろう

そして・・・腕を組んで
歩き始めるのです

告白

V-87

—告白—

まずは夢の中で

そう・・・

予行演習です

夢での

告白って

OKの返事が

返ってくるよ

そうなんだ

僕も・・・

そうしょうかなあ

夢では

返事はK I S Sだよ

わあ～

早く・・・眠りたい

愛しい人に

V-88

— 愛しい人に —

あなたは・・・希望
あなたは・・・生きがい
あなたは・・・
 心のなかの人
僕の心のなかに
いつまでも
あなたが・・・います

あなたは
 夢の中の人
眠りにつく
 決まって現われる
そして・・・
楽しいお話を
してくれるのです

だから・・・
眠りにつくのが
楽しみなんです

・・・あなたは
心のなかの人
夢のなかの人
僕の心のなかに
いつも・・・
いつまでも
あなたが・・・います

6月の恋

V-89

－ 6月の恋－

守護神・・・ユーノー

この月は女性の味方

結婚すれば

幸せが・・・

約束されるという

6月に結婚した女性で

不幸になった女性の話

僕は聞いたことが無い

そうなんだ

僕も・・・この6月に

結婚したかった

女性が幸せなら

伴侶である男も

幸せと言うわけだ

生まれ変わって

また結婚するとしたら

僕も・・・

6月に結婚します

ひたむきなこと

V-90

—ひたむきなこと—

時に流される
ことなく
現実の出来事を
心にとめて

今日は今日で
明日のことを
幸多い日と思って
前を向いて
歩きましょう

明日は
希望と大きな夢が
あるのだから

大好きな
人がいるなら
夢のなかでいいから
K i s s を . . .
贈ってみましょ

幸せな気分
に
なれますよ
あなたも . . . わたしも

もう一度会えたら

V-91

—もう一度会えたら—

もう一度
大好きな・・・
君に会えたら
何って話そう

もう一度
・・・大好きな
君に会えたら
何をしよう

夢でも
大好きな・・・
君に会えたら
思いっきり
抱きしめて
いいですか

ホントに会えたら
ただ見つめ合って
二人して
涙を流すでしょうか

もう一度会えたら
やっぱり
思いっきり
抱きしめることに
・・・しますね

いつまでも

V-92

—いつまでも—

いつまでも
僕の傍にいて

いつまでも
好きあって

いつまでも
仲良くって

いつまでも
助け合って

いつまでも
いつまでも
君と・・・ずーと
一緒にいたい

いつものように

V-93

—いつものように—

頑張っても
頑張れなくても
疲れても
疲れなくても

健康でも
健康でなくても
面白くても
面白くなくても

一日一日が
過ぎてゆきます
そうなんです
何事もなかったように

いつものように
何事もなかったように

ふり返って
なにもなかった1年が
一番いいのかもしれない

いつか晴れたら

V-94

—いつか晴れたら—

何時か晴れたら
大好きな君と
ススキの高原へ
ハイキングに行こう

背丈もある
ススキの中で
いちゃいちゃ・・・
するのもいい

自然のカーテンが
二人だけの
世界を
作ってくれる

そして・・・
いつものように
戯れるのも
いいのではないか
大好きなのだから

夢を乗せて

V-95

—夢をのせて—

いろいろな夢がある

神頼みの夢も

頑張れば適う夢も

いろんな夢は・・・

やはり・・・空へむけて

そうなんです

飛行機に夢をのせて

運ばなくちゃ

僕の夢は

ちっぽけなんです

今から・・・

自分で運ぶことします

泣いてくれますか

V-96

ー泣いてくれますかー

僕がもし病魔に
冒され・・・死ぬのなら
あなたは悲しんでくれますか

寒い季節でも
大好きな秋桜の花を
一輪でいいから
手向けてくれますか

愛する人の死を
見守るって
耐えられないこと
でも最後の別れを
してくれますか

僕の死を悲しんで
あなたは泣いてくれますか
こんな僕ですが
あなたの涙を
僕にください

V-97

－花の精と－

耳を済ませてごらん
花が何か喋ってる・・・？
好きなあなたにだけ
語りかけてるんだよ

耳を澄ましてごらん
これから雪道を歩きませんか
本当だ
話しかけてきたよ

冷たい風も
花に触れると
暖かくなって
まとわりついてきます

そんな時に出くわすと
まわりが急に春になって
近くにある花も一斉に
雪の間から
顔を出してきます

みんな春が
待ちどろしいのですね

あしたの風

V-98

—あしたの風—

明日への道は・・・
楽じゃないかも
知れないけれど
強い心でいよう

夢をもって進めば
自ずと道は開け
太陽があなたに向かって
輝いてくれます

人はひとりでは
生きていけないけれど
誰かが
いつも見守ってくれている
生きるって素晴らしい

明日のことは・・・
思い悩まずにいよう
あしたは楽しいことが
待っている明日なのです

清々しい
朝の風が吹き
閉じた筈の
厚手のカーテンが
風で開き・・・
はためいている

心地よい風が
遥か彼方の
幸せの言葉を
伝えてくれるのです

春の夢

V-99

—春の夢—

嗚呼～懐かしき日々よ・・・
春の色は・・・瞳にやさしく
顔までも自然に笑みがでる

春の香りは・・・遥か昔の
郷愁を思い起こし

春の声は
愛する女性からの
ラブコールに聞こえ

春の音は
青春への誘い（いざない）
音を辿って行くと
そこには今までに
見たこともない
幻想の世界が
現れるのです

そうなんです
夢が現実に・・・
そんな錯覚さえ覚えます

今・・・夢の中にいます
想像したことが形になって
幸せがいっぱいなんです

このまま・・・そのまま
夢なら・・・
覚めないで
・・・お願いだから

白い花は

V-100

— 白い花は —

白い花は眩しくて
清純な心の・・・
あなたと同じだ
眩しくて見つめられない

でも大好きな・・・
あなただから
じっと見つめ返します

すると花びらは
風に吹かれて・・・
僕の唇に飛んできて
K i s s をするんだよ

花びらとK i s s するって
ちょっとロマンチックね
初恋が懐かしんだよ
そして・・・
きっと淋しいんだよ

あとかぎ

がム(詩)をやっていると詩人ですか?ロマンチストなのですね?とよく言われるのですが歌の文句ではありませんが、恋をすれば誰でも詩人になれると言います。僕もそのひとりかも知れないです。

でもいい歳をして恋をしてるって、実際に恋をしても人にはなかなか言えません。

さてさて詩集：明日の夢時計について、5月10日無事に執筆完了です。

皆様方には少しは嬉しい気持ちになられたら嬉しく思います。僕的には出来上がった詩集を読み返してみると出来映えもあまり良くなくて、もっといい詩が作れなかったのかと反省しています。でもこうして第3集の詩集が完成したことを素直に喜んでいきます。これからも生命ある限り頑張って詩作に励んでまいりますのでよろしくお願ひします。

最後に電子書籍として詩集出版の場を提供下さったPUBOO様そして暖かい激励といろいろと応援下さった友人、諸先輩方の皆さんに感謝申し上げます。

瀬戸大橋の見ゆる公園にて

2018年5月 飛鳥 圭

(付記)

飛鳥 圭に関する詩集の出版履歴など

1991. 7 憧れと愛を求めて 発行：朝日カルチャセンター

1994. 3 詩集：風と愛と君と 発行：近代文芸社

電子書籍

2018. 4 明日の夢時計 発行：パブー (第3集の執筆完成)

2018. 4 憧れと愛を求めて 発行：パブー (再版の編集中)

2018. 5 夢は遥か彼方へ 発行：パブー (第4集の編集と執筆中)

2018. 5 風の旅人 執筆中 発行：パブー予定 (第5集)

初の小説

2018. 5 追想の日々 (上) 発行：パブー

2018. 5 追想の日々 (下) 編集と執筆中

明日の夢時計

<http://p.booklog.jp/book/121780>

著者：飛鳥圭

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sanbika21/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/121780>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト